

一九九九年、NTTドコモによるiモード開始を機に、若者の間で携帯電話でのインターネット利用が普及し始めました。そんな中、出向先で出会ったご縁で東京のITベンチャー企業から携帯向けホームページの開発の話が舞い込んできました。

再び自分のオフィスで開発ができるので僕は喜んでこの仕事を受けることにしました。そして、携帯関連の仕事が増えていくことも見込み、採用の強化を目指すため、地元の岐阜県多治見市を離れ、名古屋市中村区で二十六坪のオフィスを知人と共同で半分ずつ借りることにしました。

当時はIT業界が大きく動き始めた頃で、他業界からITへ人が大き

## 暗黒時代の始まり

お高生  
はし林

く動いた時代でもあります。依頼があった東京のITベンチャー企業の社員の大半もITの経験が浅く、発注から納品までの工程がこれまでの仕事と比べ粗いものでした。

仕様書も紙一枚に画面の移り変わりが書いてあるだけで、途中の仕様変更、機能追加は当たり前。それでも納期は変わらず。自分のオフィスで開発ができるとはいえ、現場はとても疲弊していったのでした。

無理な納期が原因で不具合が発生すれば、クライアントから罵声、怒号の電話が数分おきにかかってくる始末。それでも多くの仕事をいただけるため、理不尽な環境でも次の仕事を受注してしまつ自分。まさに負の連鎖に陥っていったのです。起業してから一番つらかった「暗黒期」の始まりです。(エイチーム社長)